

数理解析研究所講究録 166

作用素環の自己同型写像について



京都大学数理解析研究所

1972年10月

はじめに

これは1972年8月20日から24日まで標記の課題の下に京都大学数理解析研究所でもたれた短期共同研究集会の記録である。課題にこだわらない自由で活発な討論をむしろ尊重したことがこの記録から読みとれることと思う。なお京都^{大学}数理解析研究所の荒木不二洋教授と大阪大学基礎工学部の竹之内脩教授にはこの研究集会の実現のために一方ならぬお骨折りを賜ったが、この機会にお礼を申し述べたい。

東北大 教養 岡安隆照 記

作用素環の自己同型写像について

研究会報告集

1972年8月20日～8月23日

目次

1. C^* -algebra の Center について ----- 1
茨城大. 理. 高橋貞映
2. C^* -代数の自己同型写像について ----- 8
東北大. 教養 岡安隆照
3. von Neumann 代数の自己同型写像群と不変汎函数について ----- 18
東北大. 理. 斎藤和之
4. W^* -algebra の中心の値をとる相対次元関数の
構成と, 不変測度 ----- 31
九大. 理. 浜地敏弘
5. 作用素環の接合積における或る結果について ----- 54
大阪教育大. 高井博司
6. 作用素環の微分と自己同型写像 ----- 77
東工大. 木島洋一
村上潔
7. ある種の C^* -algebra の automorphism group について ----- 92
東工大. 生西明夫
8. Derivation and Automorphisms of operator algebras II ----- 101
奈良高専 北川誠之助

9. Cohomology of Operator Algebras ----- 109

東工大 理. 中神祥臣

10. Types of automorphism groups of von Neumann algebras and
Dye-Haga-Takeda's correspondence ----- 132

大阪教大 長田利彦